

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成4年2月20日発行(毎月1回20日発行)
物性研究 第57卷 第5号

ISSN 0525-2997

vol.57 no.5

物性研究

1992/2

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で、**private communication** 扱いにして下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**

ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）

 - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
 - 2) マージンはB5で、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
 - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
 - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の適当な箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journalの投稿規定に準じ、立体（□）、イタリック（*—*）、ゴシック（**—**）、ギリシャ文字（ γ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくいcとe、eとl、vとu、uとn、l（エル）と1（イチ）、O（オー）と0（ゼロ）、x（エックス）と \times （カケル）、†（ダガー）と+（プラス）、 ψ と ϕ と Ψ と Φ なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で、**private communication** 扱いにして下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**

ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）

 - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
 - 2) マージンはB5で、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
 - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
 - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の適当な箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journalの投稿規定に準じ、立体（□）、イタリック（*—*）、ゴシック（**—**）、ギリシャ文字（ γ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくいcとe、eとl、vとu、uとn、l（エル）と1（イチ）、O（オー）と0（ゼロ）、x（エックス）と \times （カケル）、†（ダガー）と+（プラス）、 ψ と ϕ と Ψ と Φ なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

編集部より

1992年度「物性研究」会費納入について

1992年度の「物性研究」の発行は下記の通りです。

Vol.58 No.1 - 6 (1992年4月号~1992年9月号)

Vol.59 No.1 - 6 (1992年10月号~1993年3月号)

個人会員は前納制となっておりますので、1992年度購読希望者は、本号にとじ込みの郵便振替用紙で、年額 9,600 円をお振込下さい。発送の準備がありますので、振込は1992年3月末までをお願いします。

すでにお知らせしましたように、大変心苦しいのですが、1992年度より、値上げとなりましたので、ご了承下さいますようお願いいたします。

中止は巻の切れめしかできませんので、1991年度 (Vol.57 No.6まで) で中止を希望の方は、至急、ご連絡下さい。本人から中止の連絡のない場合は、引き続き送本されますのでご注意ください。

1991年度以前の購読料が未納の方は、早急にお振込くださいますようお願いいたします。

〒606 京都市左京区北白川追分町

京都大学 湯川記念館内

物性研究刊行会

TEL. (075) 753-7051, 722-3540

郵便振替口座 京都 1-5312

編集後記

私事で恐縮であるが先日のこと、妻が小学生の娘に向かって言うには「あんたたち大変よ、グラムやキログラムが使いなくなるんよ。」どうやら計量法改正のことを紹介した朝日新聞の「天声人語」が元らしいが、横から聞き咎めて質量と重量の違いを得々と説明し、「ダイエットの目的は重量を減らすことか、質量を減らすことか」ということで、これはなんとか理解いただいた。しかし母子の会話に水を差されてご機嫌斜めの彼女「でも、1000キログラムじゃないみただけど何か別のトンを使うようになるとか、数字まで書かれていたわよ。」ときた。これは一体何のことか皆目見当がつかないまま、うやむやに終わっていた。同様の混乱があちこちの読者の間で起こったようで、数日たって「天声人語」で再び話題になった。質量と重量の違いについて天声人語子による正確な弁明が行なわれていたのはもちろんである。さて、読み進むうちに思わず吹き出してしまったのは「小錦は2567ニュートン」のくだりである。なるほど彼女に恥の上塗りをさせた犯人はこの小錦関、2567Nと書かずカタカナ書きしたりするから、新円ならぬ「新トン」となるわけか。原語で書けば2567newtonだから、いよいよややこしい。「そもそも物理量の単位に偉い人の個人名を使ったりするから物理ぎらいが増えるんだ。」と言いたいところであるが、アンペアやワットならばどうだ、「おやじの頭 100ワット」なんて小学生の頃から歌っていた、それに、由来を知らない者にとってエルグやダインとどう違う？ということにもなる。そもそも小生、学生時代に「エルゴード定理=エルゴードの定理」と思い込んでしまい、かなりたってから赤恥をかいた覚えがあるではないか。どうやら固有名詞が物理嫌いの元凶であると断定するのは、居並ぶ偉人方々に対して失礼のようだ。まあ、考えてみればニュートンも捨てたものでもない。100g重 \approx 0.98Nだから、我が家の買物なら「そこの特売の牛を3ニュートンばかり計って」と言えばいいわけで、頭の切り替えは易い。いっそのこと中国流で「3牛噸」と書くことにすれば、これはもうぴったりだ。（これはダジャレの行き過ぎ、本当のところは該当する日本漢字で書くなら口惜しいかなNewton先生は「牛噸」。ついでにエルゴード定理の方は「各態歴経定理」で、私のような過ちを冒す余地はない。）(H. T.)

物 性 研 究 第57巻第5号 (平成4年2月号) 1992年2月20日発行

発行人	池田研介	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL(075)721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	15,600円		

編集後記

私事で恐縮であるが先日のこと、妻が小学生の娘に向かって言うには「あんたたち大変よ、グラムやキログラムが使いなくなるんよ。」どうやら計量法改正のことを紹介した朝日新聞の「天声人語」が元らしいが、横から聞き咎めて質量と重量の違いを得々と説明し、「ダイエットの目的は重量を減らすことか、質量を減らすことか」ということで、これはなんとか理解いただいた。しかし母子の会話に水を差されてご機嫌斜めの彼女「でも、1000キログラムじゃないみただけど何か別のトンを使うようになるとか、数字まで書かれていたわよ。」ときた。これは一体何のことか皆目見当がつかないまま、うやむやに終っていた。同様の混乱があちこちの読者の間で起こったようで、数日たって「天声人語」で再び話題になった。質量と重量の違いについて天声人語子による正確な弁明が行なわれていたのはもちろんである。さて、読み進むうちに思わず吹き出してしまったのは「小錦は2567ニュートン」のくだりである。なるほど彼女に恥の上塗りをさせた犯人はこの小錦関、2567Nと書かずカタカナ書きしたりするから、新円ならぬ「新トン」となるわけか。原語で書けば2567newtonだから、いよいよややこしい。「そもそも物理量の単位に偉い人の個人名を使ったりするから物理ぎらいが増えるんだ。」と言いたいところであるが、アンペアやワットならばどうだ、「おやじの頭 100ワット」なんて小学生の頃から歌っていた、それに、由来を知らない者にとってエルグやダインとどう違う？ということにもなる。そもそも小生、学生時代に「エルゴード定理=エルゴードの定理」と思い込んでしまい、かなりたってから赤恥をかいた覚えがあるではないか。どうやら固有名詞が物理嫌いの元凶であると断定するのは、居並ぶ偉人方々に対して失礼のようだ。まあ、考えてみればニュートンも捨てたものでもない。100g重 \doteq 0.98Nだから、我が家の買物なら「そこの特売の牛を3ニュートンばかり計って」と言えばいいわけで、頭の切り替えは易い。いっそのこと中国流で「3牛噸」と書くことにすれば、これはもうぴったりだ。（これはダジャレの行き過ぎ、本当のところは該当する日本漢字で書くなら口惜しいかなNewton先生は「牛噸」。ついでにエルゴード定理の方は「各態歴経定理」で、私のような過ちを冒す余地はない。）(H. T.)

物 性 研 究 第 57 卷 第 5 号 (平成 4 年 2 月号) 1992 年 2 月 20 日 発行

発行人	池 田 研 介	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	15,600円		

会員規定

個人会員

1. 会費：当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるべく1年間分会費を御支払い下さい。
なお新規入会お申込みの場合は下記の会費以外に入会金として、100円お支払い下さい。

1年間の会費

1st volume (4月号～9月号)	4,200円
2nd volume (10月号～3月号)	4,200円
	計 8,400円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。
(振替貯金口座 京都1-5312) (現金書留は御遠慮下さい)
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず会員本人の名前を明記して下さい。
3. 送本中止の場合：次の volume より送本中止を希望される場合、かならず「退会届」を送付して下さい。
4. 会費の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols. 以上の会費を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人宛送本中に大学等で一括配布を受けるようになった場合は、必ず「個人宛送本中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等により送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関会員

1. 会費：学校・研究所等での入会及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1冊 1,300円、1 Vol. 7,800円、年間15,600円です。この場合、入会金は不用です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。入会申込みをされる時、支払いに請求、見積、納品書が各何通必要かをお知らせ下さい。
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合：発行途上にある volume の途中送本中止は認められません。退会される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「退会届」を送付して下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

☎ (075) 753-7051 722-3540

物性研究 57—5 (2月号) 目次

- 可積分非局所格子方程式.....成田 和明..... 595
- 研究会報告
「数理物理学における非線形問題」..... 598
- 編集部より
1992年度「物性研究」会費納入について..... 707
- 編集後記..... 708

物性研究 57—5 (2月号) 目次

- 可積分非局所格子方程式.....成田 和明..... 595
- 研究会報告
「数理物理学における非線形問題」..... 598
- 編集部より
1992年度「物性研究」会費納入について..... 707
- 編集後記..... 708